

帝京科学大学 学校教育学科 だより

平成28年10月24日
創刊号

発行者：帝京科学大学 教育人間科学部 学校教育学科

後ろ姿の教育を支える

学科長 小池 守

昔から語り継がれる言葉に、「後ろ姿の教育」というものがあります。職人の世界には、親方がすることを黙って見て、技術を盗むという修行生活があるようですが、親や教師の振る舞いの中から、その生き方を学び人間性を高めていくことを、教育の原点として示しているのでしょう。

ここでいう「後ろ姿」とは、それまでの生き方のことであり、親や教師が意図的に見せたいものではありません。それは、見る人が、それまで生きてきた中で見たいと思ったことだけを、取捨選択しているからです。

さて、私たち大学教員の日常生活について考えてみます。日々専門分野の研究に打ち込み、その成果を学術論文として発表する。自分の研究を基に、学生にわかりやすい授業を提供する。親身になって学生の相談にのり、問題を解決する筋道を示す。地域社会に溶け込み、自分なりの役割を見出し、地域に貢献する。こうしたごく当たり前の生活を通して、私たちは自らの後ろ姿で学生を教育しようとしています。

しかし、「後ろ姿の教育」が有効に働くためには、教員側の日々の努力と共に、学生の側にも、正しく後ろ姿を取捨選択できる基礎的な素養が必要であることは言うまでもありません。本学科では、教員としての基礎的な素養を学生が必然的に身につけられるよう、以下のような教育環境を整備・提供し、学生ファーストの教育を実践しています。

- (1) 一人の教員が5名程度の学生を担当し、親身になって相談にのる助言教員制度
- (2) 小学校から高等学校までの学習の見直しを行うリメディアル教育
- (3) 学生が自ら考え行動する場を提供する教育研修生SAT (Student Assistant Teacher)
- (4) 学生の日々の努力を認める学科表彰制度
- (5) 教員となって困らない教職教育及び教科内容教育の充実
- (6) 実践教育の場としての教育実習の充実
- (7) 日常生活で使用する英会話の習得を目指した海外語学研修プログラム



海外語学研修実施について

学校の現場では、近年増加している外国籍の児童・生徒や保護者への対応をしていく際、日本語のみならず、英語での対応が求められるようになっていきます。そのため、本学科では英語でのコミュニケーションを積極的にできる人材を輩出したいと考えています。また、小学校コースの学生においては、間もなく発表される新学習指導要領における「外国語活動」の3年生への引き下げ、5年生からの教科化に向けて、状況に対応することができるよう、4年間のうちに、英語力を増強していくことが望まれます。現在、2017年3月に海外語学研修をする準備を進めております。本学科3コースの全学生が参加対象です。

日程： 2017年3月5日(日)～3月19日(日)
研修場所： ELS Language Centers St. Petersburg校 (アメリカ合衆国 フロリダ州)
費用： 482,000円(燃油サーチャージ、空港諸税は含まず。)
申込締切： 2016年11月16日(水)

現地では、月曜から金曜までは午前中、現地の語学学校で世界各地からやってきた学生と一緒に、レベル別のクラスで英語の授業を受講します。午後は語学学校が用意したアクティビティに参加することもできます。本学の学生向けのプログラムとして、現地の小学校や幼稚園訪問も用意しております。また、週末にはフロリダのディズニーワールドにも訪れます。申込詳細は、9月12日(月)に学生向けに実施した説明会で配布した資料をご覧くださいたく存じます。

大学4年間のうちに、海外語学研修を体験することは、就職のときにも有利となるだけでなく、学生の皆様にとって、広い視野を身につけるためにも必要不可欠ですので、是非、ご参加いただきたく存じます。なお、2年次以降の本企画については、決定次第、お知らせいたします。

教育研修生SATの活動について

～私たちは、様々な教育活動を学生たち自らが企画・実行する学科公認の学生サークルです～

1. 目的：活動を通して、教員に求められる以下の資質・能力や社会人としての基礎力を育成します。
 - 教職に対する情熱、子どもに対する責任感など教員になるための意欲や基礎的能力！
 - 社会性・コミュニケーション能力・自己表現能力・企画調整力・課題解決能力！
 - 学科の教員や学生たちとの一体感と仲間意識！
 - 地域貢献活動の一役を担い、地域社会との関わりや社会人となる豊かな人間性！
2. 組織：学校教育学科3分の2に当たる60名以上の1年生が参加しています。(随時募集中)

➢ 役員・委員・コース・係ごとの学生リーダー
→ 各自は希望する係内のプロジェクトで活躍！

役員：会長・副会長・書記 委員：広報・会計
コース：小学校・中高理科・中高保健体育
係：夢の体験教室・地域貢献活動・福祉・ショッピングゲリラ・学習支援・キャンプ・プール

- 学生主催の広報(HPや掲示板)や報告会を開催
→ SATの活動を学内外へPR！
- 学科や教職センターに担当教員を配置
→ SAT担当教員が学・の活動を支援！

3. 活動：2つの活動の柱があります。
1) 大学および地域に貢献する活動

◇学科行事のオープンキャンパスや足立区全小学校5、6年児童対象の「夢の体験教室」運営 ◇教員による出前授業・教員研修アシスタント ◇足立区教育委員会の「あだち放課後子ども教室」など地域と連携した事業・活動への参加 ◇地域の要請に基づくボランティア(防犯教育、近隣町内会の行事など) ◇公共性の高い施設での子ども対象イベントの企画・実施(例、児童対象の工作・宿題応援活動) など

2) 学校インターンシップ活動(学校体験活動：教育実習前に学校での就業体験の機会を提供)

◇近隣の小中学校での授業内及び放課後や夏期休暇中での学習指導の補助 ◇夏休みの水泳指導、部活動や事務作業など授業以外の学校・学級運営の補助 ◇遠足や校外学習・運動会などの学校行事の実施補助 ◇外国籍や特別な配慮の必要な児童生徒の支援 など

4. 効果：キャリア形成と就職活動ならびに自己形成に有効です。

◇大学キャンパス・教室内での学習プラスαにより、教育実習がより効果的に！ ◇教職への理解を深め、採用後のミスマッチを防止！ ◇教員採用試験の人物評価に活用(願書などの書類に課外活動などについての記載が求められる)！ ◇足立区教育委員会や他大学学生との共同事業や交流など、生企画で無限の発展性！ など



教育実習参加講習会

～心構えや技量を磨きます～

教員免許状を取得して「教師になる！」という強い意志を有する学生の支援のために、本学科では、1年次から4年次まで10回程度の教育実習参加講習会を企画し、始めました。

内容は、ごく当たり前のことですが、次のような学びの構成をしています。

- ①教育実習の目的や意義、資質について理解すること。
- ②自分の特徴や課題を把握し、実習に向けた資質形成に意欲的に取り組むこと。
- ③実習で求められる社会性(服装や髪型など)、コミュニケーション能力を獲得すること。
- ④健康管理やスケジュール管理、計画的な学習を進めること。
- ⑤実習に伴う事務手続きを行う書類作成能力を身に付けることなどです。

初回の講習会は、後期授業開始前の9月12日(月)に、教育実習に向けた4年間の計画、参加条件と心構え、本学4年生の実習報告等の内容で実施しました。

特に、3年次に教育実習を体験した児童教育学科の4年生は、教育実習で気を付けることとして、

・礼儀作法、挨拶の励行、言葉遣い、教職員や保護者への態度、早めの出勤、清掃等の気配り・心配りの重要性、指導教官や管理職への報告・連絡・相談の大切さ、児童との信頼関係を築くための声かけや遊びなどについて、教育実習で得た「感動、元気、決意」を交えて語ってくれました。

講習会に参加した1年生は、全員、清涼感のある髪型、スーツ着用で、教育実習に向かう心構えの定着や資質の向上が大いに期待できると確信したところです。

なお、教育実習参加者講習会は、一度でも欠席すると、教育実習を行うことのできない重要な講習会です。こうした講習会が、4年間に何度も開催されます。忘れずに参加しましょう。



リメディアル教育の充実

～小学校から高等学校までの学習の学び直しを行います～

本学科では、免許を取得するためではなく、教員になるために学修を進められるよう、様々なプログラムを展開しています。そのひとつが、リメディアル教育です。リメディアル(Remedial)は「改善の」「補習の」という意味で、大学教育を受けるために必要な基礎学力を補うために行われる補習教育のことです。本学科のリメディアル教育は、大学の授業を理解するための基礎的な学力不足を補う「基礎学力の支援教育」と同時に、学力不足と判断されたり、高校で未履修だった科目の補完教育でもあります。

教員の最大の職務は学習指導ですが、基礎的な学力がなければ指導はできませんし、教員採用試験に合格することもできません。そこで、以下のような授業や講座を展開しています。

1年前期	プレイスメントテスト(国語、数学、理科、社会、国語)、教職セミナーⅠ(数学)、基礎学力判断テスト(一般教養)土曜講座(数学、理科)
1年後期	教職セミナーⅡ(理科)、土曜講座(英語、社会、国語)
2年前期	教職セミナーⅢ(英語)、基礎学力判断テスト(一般教養)
2年後期	教職セミナーⅣ(社会、国語)
3年前期	基礎学力判断テスト(一般教養)

入学直後に行う「プレイスメントテスト」で到達度別に分けられたクラスで、卒業必修科目の「教職セミナー」を行います。また、1年次に開催する「土曜講座」は、「教職セミナー」での学びをさらに補完する目的で行う、学科独自のプログラムです。さらに、毎年9月に「基礎学力判定テスト」を行うことで、基礎的な学力が定着しているかについての確認を行っています。

学び直しの学習プログラムは、学生の学力向上を助けるだけでなく、子どもたちに分かるように教えるコツをつかむことも可能です。また、ボランティア活動等で小中高等学校に出かけることができますが、自らつまづきを克服した経験は教える際に自信となります。

小中学校で分からなかったこと、高等学校で解決できなかった問題を、教員になる前に、しっかりと解決しておきたいですね。

学び直しを通して、基礎学力をしっかりと身につけます。



取得可能免許について

～免許を取ることを目的とした学科ではありません。教員を養成する学科です～

本学科は教員養成課程と認められていますので、必要な単位を取得することにより卒業時に教員免許状が授与されます。取得できる教員免許状は、小学校コースは小学校教員一種免許状、中高保健体育コースは中学校一種免許状(保健体育)、高等学校一種免許状(保健体育)、中高理科コースは中学校一種免許状(理科)、高等学校一種免許状(理科)です。

免許状を取得するために必要な科目や単位は学生便覧に掲載されていますので、よく読んで間違いなく履修しましょう。余力のある人は、他コースの科目を履修することによって、他コースの免許状を取得することができますが、まずは、所属しているコースの教科目について十分に学習し、そのコースの免許状取得を確実にすることが必要です。

教員免許状を取得することは教員になるための必要条件にすぎません。採用試験に合格しなければなりません。そのためには、本学科で用意されている講座を利用するなどして、1年次から計画的に勉強していくことが肝要です。

さらに、教師としての人生を歩むことができるように、4年間の学習を通して、教員として継続して学ぶ力を身につけていってください。

生活のきまり

本学科は、教員養成を目的とする学科のため、平素より髪の毛の色や髪型、服装などに気を遣った指導をしています。勿論、外見だけでなく、内面の指導も大切ですので、授業中の態度や出欠席についても、細かな指導も行っています。大学1年生の段階から、仕事に適した服装や髪型、そして振る舞いについて考える機会をとっていきたいと考えています。

詳細な指導方針につきましては、学生に対してはオリエンテーションや基礎ゼミの授業で、保護者の皆様におかれましては保護者説明会にてご説明いたします。なお、生活の決まりを遵守することは、3、4年生で行う教育実習の受講基礎条件になっています。

☆あとかき☆

学校教育学科では、学科の教育方針や具体的な取り組み、学生の様子などを保護者説明会や学科だよりを通じてお知らせすることにしております。創刊号は郵送及び学科のHPに掲載する形でお届けいたします。今回は、学科発足半年間の取り組みのうち、ほんの一部の紹介にとどまりましたが、ご質問等ございましたら、大学までお問い合わせください。なお、次号以降は、学科のHPに掲載いたしますので、ご覧ください。保護者説明会は、来年5月のオープンキャンパスに併せて開催する予定で計画を進めております。